

## 自転車について考えた道



足で歩くより速く、自動車より遅い乗り物、自転車。歩くのと同様に体力を使いますが、自動車より早いうちに乗れるようになる手頃な乗り物であるうえに、渋滞も発生しない。自転車は便利な歴とした乗り物です。

しかし、少し気がかりな点もあります。それは、乗っているときの自分や周りの人間の危険です。自転車は車なので本来、歩道を走ってはいけません、自転車通行可規制看板がある場合のみ走ることができます。(図1)



図1

しかし、その分人が増えると歩道の中の人口が増えて目の前に人が歩いていることもあります。ぶつかってしまったら・・・と思うと、スピードを落とさないといけません。しかし、通学時や通勤時は普段と比べて人が混雑しています。気をつけていても人が多ければ多いほどスペースが

なくなり歩いている人も自転車をこいでいる人も大変危険だと思います。特に曲がり角は危険です。いきなり人が前から出てくるので止まることが大変です。だからといって車道に出るわけにもいきません。進行方向が同じなら後ろから来る車と。逆の場合前から来る車とぶつかる可能性もあるわけです。中には歩道に段差やガードレールすらない細い道だってあるわけですから、安心して自転車をこぐことなんてできません。

なら、どうしたらいいか。自転車の理由が盛んな西ヨーロッパ諸国、特にオランダ、デンマーク、スウェーデン、ドイツは自転車の交通政策や観光政策等で自転車交通が促進・整備されています。オランダのアムステルダムには自転車専用道があります。日本も自転車用の道を作ればいいと思います。日本にもありますが、その数は少なくほとんどが自転車通行可能の歩道です。しかし、自動車と徒歩で使用する道が分かれているのだから、自転車用の道があってもいいはずで。人が通る道、歩道と分離することで速さの違いからくる危険を減らします。幅は自転車2台分で、さらに進行方向で2分します。これによって自転車同士が正面衝突するのを防ぎます。2つの道はガードレールを仕切りにします。自転車用の道ができたことで歩道や車道に出て、歩いている人や自動車と接触事故を起こすことは少なくなるはずで。

危険や不安を取り除くことで、自転車を使う人もそうでない人も安心して使える、使いやすい道になると思います。

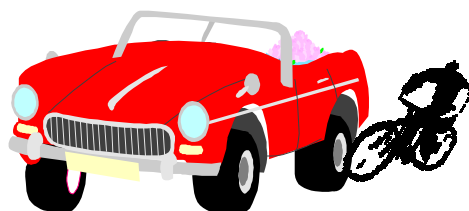


図2

歩道側の自動車が後ろから来たらとっさに避けなければいけない。後ろが見えないので危険。(図2)



図3

曲がり角でも角の先から人が来ているかどうかなんてわからないのでスピードを出している状態だと避けようがない。(図3)

歩道に人が大勢歩いている場合(博多とか天神といった中心部に多い。特に朝の通勤時や通学時)図に示すように人の合間を縫うように進まなければいけない。かなり進みにくくて時間も手間もかかる。しかし、自転車用の道を作ることですmoothに。できれば2車線から4車線に増やしたい。(図4)

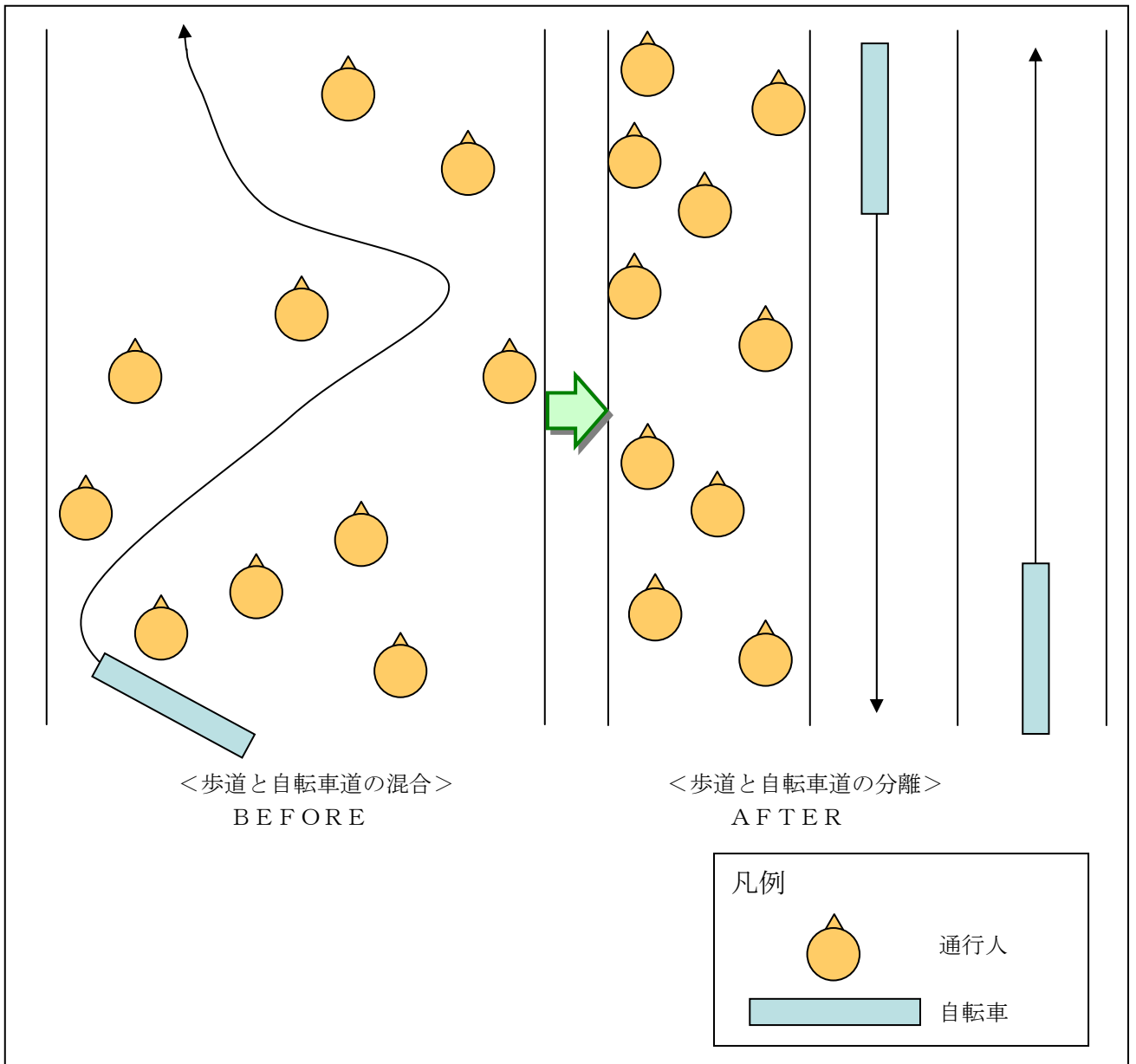


図4

もちろん、これは道を整えただけで、本当に便利になるためには周りの人のことを一人一人考えなければいけません。ただ、環境の変化をきっかけにこの道を使う人達がそういう気持ちに気付いてくれたらいいと思います。